



2015 Study Abroad

Challenge
Your
World 



留学ガイドブック

今だから出来る事をしよう。

日本大学国際関係学部

日本大学短期大学部(三島)

～ はじめに ～

「留学」とは単なる語学の修得のみでなく、その国の歴史や文化・風土を肌で感じ、その世界に飛び込んでいくことです。そこで得たものは人生での大きな経験となり、人間力の向上に大いに役立つものです。留学のために半年から1年という中長期間の時間を確保することができるのも、この学生時代しかないのではないのでしょうか。日本人の海外留学者数が減少している昨今、是非皆さんには積極的に留学にチャレンジしていただき、海外の大学で大いに学び、視野を広げ、帰国後もその貴重な留学経験を社会でしっかりと生かしていただきたいと願っております。

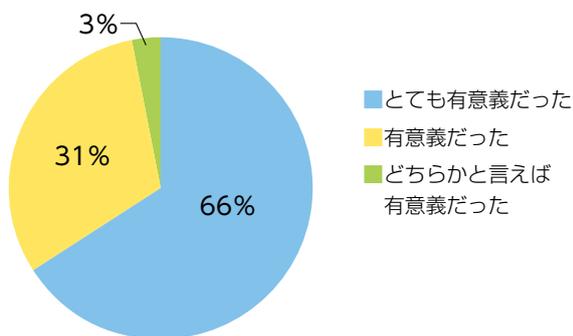
本学部では留学支援のための国際交流プログラムを用意しております。海外の大学等と覚書、合意書を取り交わし、学術、文化の交流を行い、1年間の交換留学をはじめ、半年間の中期留学も実施しています。休学することなく留学し、4年間で卒業するための単位認定や授業料の減免等の優遇措置も整備されています。

また、約1か月間の短期海外研修プログラムや、日本や日本文化等を海外の小中学校で紹介する2か月間のティーチング・インターンシップ・プログラムも用意しておりますので、あなたの目標に応じて参加してみてください。

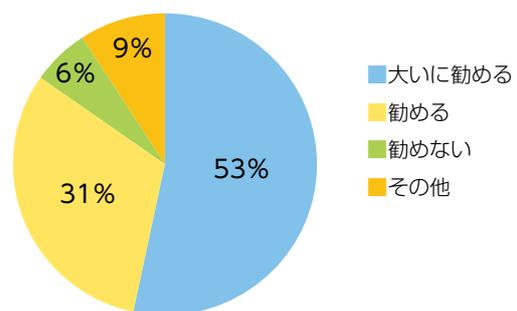
本冊子後半に掲載している昨年度留学した先輩方の報告書（国際交流体験記）と併せてご覧ください。

留学者帰国後アンケート結果

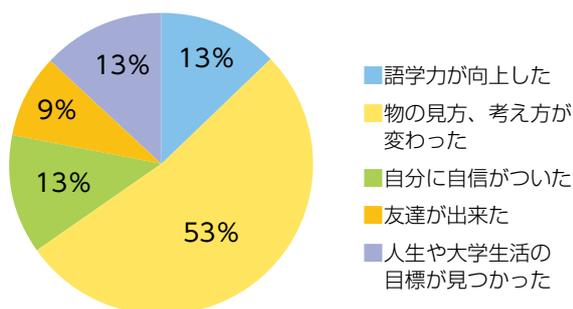
① 留学は有意義でしたか？



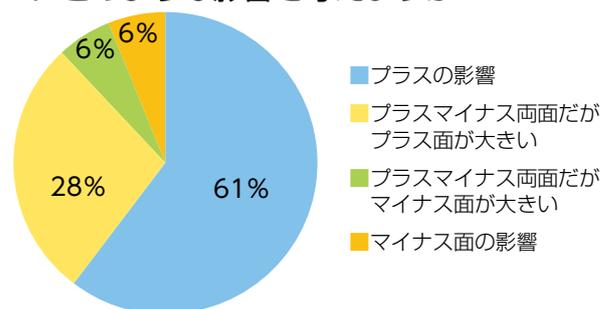
② 後輩へ中期留学を勧めますか？



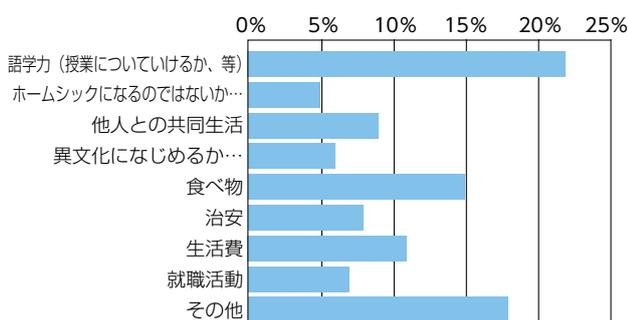
③ 留学してもっともよかったことは？



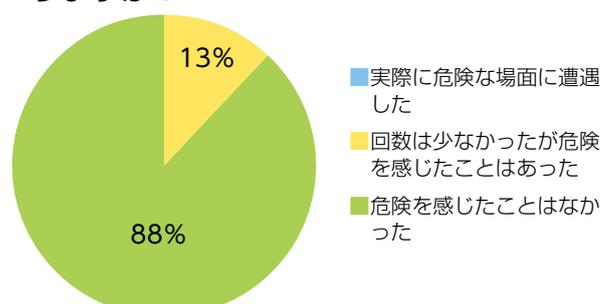
④ 3年次参加学生の皆さん、留学は就職活動にどのような影響を与えますか？



⑤ 留学を決心する際に不安だったことは？



⑥ 留学期間中に身の危険を感じたことがありますか？



目次

1 留学・短期海外研修

◆派遣交換留学	5
◆中期留学	9
◆認定留学	10
◆ジョイント・ディグリープログラム	11
◆留学準備プログラム	12
◆短期海外語学研修	13
◆ティーチング・インターンシップ・プログラム	14
◆平成27年度新規追加予定プログラム	15
◆国際教育センターについて	15
◆TOEFL® テスト	16
◆海外留学関連説明会・募集年間予定	17

2 国際交流体験記の紹介

◆交換留学（派遣）	
学部派遣	19
本部派遣	20
◆中期留学	
セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ）	21
ゴア大学（インド）	22
北京大学国際関係学院（中国）	23
◆認定留学	
トロント大学附属語学学校（カナダ）	24
◆留学準備プログラム	
ハワイ大学	25
◆短期海外語学研修	
ストーニーブルック大学（アメリカ）	26
ハワイ大学（アメリカ）	27
北京大学国際関係学院（中国）	28
◆ティーチング・インターンシップ・プログラム	
ハイランズ・インターメディアイト・スクール（ニュージーランド）	29
ナラン学校（モンゴル）	30
◆教員の交流	
イリノイ州立大学	31
テキサス A&M 大学	32

英語圏に留学したい！

学びたい

やっぱり語学を中心に学びたい！

大学の留学プログラム以外でどうしても実現したい留学プランがある。
あるいは、留学先は自分で決めたい。

はい いいえ

次のいずれかにあてはまる？

- 英語にある程度自信あり
 - TOEFL® スコアは400点以上
- ※TOEFL® とは？ 16ページ

あてはまらない

夏 / 春の休暇期間を利用したい。

こだわらない

はい

日本語や日本文化
を海外で教えたい！

ティーチング・インターシッププログラム

14ページ



海外で語学を学びたい。

認定留学

10ページ



海外で語学を学びたい。

海外短期語学研修

13ページ

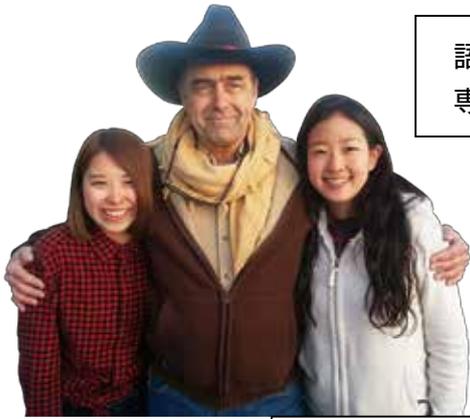


この資料はあくまでも参考資料です。留学希望者

もちろん、英語以外の言葉でも

あなたにお勧めの留学は？

ものは…



語学だけでなく、英語を通して
専門科目も学びたい！

三島でハワイ大の授業を受けよう

留学準備プログラム

12ページ



ハワイ大学 (アメリカ)

あてはまる

次のいずれかにあてはまる？

- 英語は「できてあたり前」と思っている
- TOEFL® スコアは500点以上

あてはまらない

あてはまる

留学期間はどのくらい？

1年以上

半年
でもOK

次のいずれかにあてはまる？

- 学業成績に絶対的自信あり
- GPA が 2.8 以上

あてはまらない

あてはまる

日大と留学先の2つの学位を
目指す最難関プログラム

ジョイント・ディグリープログラム

11ページ



ストーニーブрук大学 (アメリカ)

語学だけでは物足りない。

中期留学

9ページ



ゴア大学 (インド)

海外で、外国語で学びたいことがある。

派遣交換留学

5ページ



セント・ノーバート・カレッジ (アメリカ)



は本館 1F 国際教育センターまでお越しく下さい。

留学するチャンスはあります！

留学について

国際関係学部の留学制度には、大きく分けて学部（又は本部）主催で実施されるものと、個人で計画・手続きを行う「認定留学」があります。いずれの場合も、休学することなく大学の承認を得て留学することができます。これらの留学には、次のような特徴があります。

①留学期間

半年から最長2年間

休学をしないで留学できる。修業年数に算入できるので、単位等の卒業要件を満たすことができれば、最短4年での卒業が可能

②留学期間中の学費

日本大学への学費は、留学生在籍料として、半年の場合6万円、1年間の場合は12万円のみを徴収

③奨学金

日本大学三島後援会海外交流奨学金 派遣交換留学生、ジョイント・ディグリー・プログラム派遣生、及び中期留学参加者の一部に給付

柳川海外交流奨学金

学部派遣交換留学ヨハネス・グーテンベルク大学派遣生

海外留学・研修等プログラム一覧

	派遣交換留学		中期留学	認定留学 (制度)	ジョイント・ ディグリー・ プログラム	留学準備 プログラム	短期海外 語学研修	ティーチング・ インターシッ プログラム
	学部	本部						
掲載ページ	5～8	5	9	10	11	12	13	14
期 間	1年	1年	半年	半年～2年	2年間～	2～3週間	2～4週間	2か月 (研修半年)
派遣先学校数	9校	約20校	3校	制限なし	1校	1校	5校	7校
人数/校	1名	1～2名	15～20名	規定なし	若干名	15名 45名	20～30名	1～2名
言語	英、中、独 韓	英、中、独 仏、韓	英、中	英、中、独 仏、露、韓 西、葡	英	英	英、中	英
単位認定	○	○	○	△	○	○	○	○

1 留学・短期海外研修



※各留学プログラムは、外務省の海外安全情報に基づき、国際紛争、テロ、災害、及び人為的、不慮不可抗力による事故等の発生により、渡航または現地での滞在に危険があると判断された時は、募集並びに派遣を中止または途中で帰国させる場合があります。

※各プログラムの募集概要は、事情により一部変更となることがあります。募集要項やガイダンス、掲示等で最新情報を確認してください。

派遣交換留学

派遣交換留学とは日本大学本部及び国際関係学部が交換留学に関する協定・覚書・合意書を締結している大学へ学生を派遣する制度です。留学期間は約1年間で、「日本大学本部派遣交換留学」と「国際関係学部派遣交換留学」の2種類があります。

大学・学部の代表として選ばれた者だけが交換留学生として提携校に派遣されます。代表者であるため、語学力だけでなく全般的な学力や責任のある行動や態度が求められることとなりますが、一方では、提携校の授業料は免除となり、その他奨学金の給付もあります。留学中は現地の学生とともに正規の授業を受けることもでき（※1）、大学・学部と提携校を結ぶ友好親善大使として留学期間を過ごすことにもなります。派遣交換留学生だけに与えられた素晴らしい機会です。

日本大学本部派遣交換留学の詳細は、日本大学本部のホームページ（※2）で確認してください。国際関係学部派遣交換留学の詳細については次頁以降を参照してください。

※1 受入先大学が求める語学等の条件が必要になる場合があります。

※2 日本大学本部派遣交換留学についての詳細
[\(http://www.nihon-u.ac.jp/international/study_abroad/\)](http://www.nihon-u.ac.jp/international/study_abroad/)



派遣交換留学

募集時期及び選考日程等

募集時期	派遣先国・地域	出発時期	出願期限（予定）	面接試験日（予定）
春募集	ニュージーランド	平成28年2月	平成27年6月1日	6月第2週～第3週
	韓国	平成28年2月	平成27年6月1日	6月第2週～第3週
秋募集	米国	平成28年8月	平成27年11月13日	11月第4週～12月第1週
	中国・台湾	平成28年9月	平成27年11月6日	11月第3週～第4週
	ドイツ	平成28年10月	平成27年11月6日	11月第3週～第4週

募集概要

※現地発生費用は、平成26年度実績に基づいたものであり、実際にかかる費用は、派遣先大学の料金改定や外国為替レートの変動等により変更となる可能性があります。
 ※TOEFL® スコアの有効期限は2年間です。提出スコアの取得日に注意してください。
 ※現地発生費用の「その他生活費」は、平均的な目安ですが、個人の生活習慣等により差異があります。

米国

大学名	セント・ノーバート・カレッジ St. Norbert College	ニューヨーク州立ストーニーブルック大学 Stony Brook University	モンタナ州立大学 Montana State University	
所在地	米国 ウィスコンシン州 100 Grant Street De Pere, WI, USA	米国 ニューヨーク州 Stony Brook, NY 11794, USA	米国 モンタナ州 400 Culbertson Hall, Bozeman, MT, USA	
URL	http://www.snc.edu/	http://www.stonybrook.edu/	http://www.montana.edu	
学生数	約2,300人	約24,000人	約14,700人	
留学期間	平成28年8月～平成29年5月（平成28年度後期・平成29年度前期）			
派遣条件	GPA	2.8以上	2.8以上	3.0以上
	語学能力等	TOEFL-ITP ® 550点以上 TOEFL-iBT ® 79点以上	TOEFL-ITP ® 550点以上 TOEFL-iBT ® 71点以上	TOEFL-ITP ® 530点以上 TOEFL-iBT ® 79点以上
宿舎	学生寮	学生寮	学生寮	
留学経費	奨学金	日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度有り		
	現地発生費用 (年間目安)	寮費・食費 \$9,500 教科書代・保険料・その他生活費 \$4,000 上記合計 US\$13,500 ≒ 約162万円 (1US\$ ≒ ¥120)	寮費 \$7,600 食費 \$4,300 保険料 \$1,100 教科書代 \$900 その他生活費 \$2,000 上記合計 US\$15,900 ≒ 約191万円 (1US\$ ≒ ¥120)	寮費・食費 \$8,380 教科書代 \$1,250 その他生活費 \$3,33 上記合計 US\$12,960 ≒ 約156万円 (1US\$ ≒ ¥120)

ニュージーランド

大学名	WITT (Western Institute of Technology at Taranaki)		
所在地	ニュージーランド ニュープリマス市 20 Bell Street, Private Bag 2030, New Plymouth, New Zealand		
URL	http://www.witt.ac.nz/		
学生数	約5,200人		
留学期間	平成28年2月～12月（平成28年度通年）		
派遣条件	GPA	2.8以上	
	語学能力等	TOEFL-ITP ® 500点以上 / TOEFL-iBT ® 61点以上	
宿舎	ホームステイ又は学内ホステル		
留学経費	奨学金	日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度有り	
	現地発生費用 (年間目安)	①ホームステイ 約\$9,460（食事付き） ②学内ホステル 約\$6,665 食費目安 約\$4,300 その他生活費 約\$2,000 保険料 約\$650 上記合計 ① NZ\$12,110 ≒ 約109万円 ② NZ\$13,615 ≒ 約123万円（1NZ\$ ≒ ¥90）	

募集概要

※現地発生費用は、平成26年度実績に基づいたものであり、実際にかかる費用は、派遣先大学の料金改定や外国為替レートの変動等により変更となる可能性があります。

※TOEFL® スコアの有効期限は2年間です。提出スコアの取得日に注意してください。

※現地発生費用の「その他生活費」は、平均的な目安ですが、個人の生活習慣等により差異があります。

■ 韓国

大学名	韓国カトリック大学校 가톨릭대학교	世宗大学校 세종대학교	
所在地	韓国 ソウル市 43 Jibong-ro, Wonmi-gu, Bucheon-si, Gyeonggi-do, Seoul, Korea	韓国 ソウル市 98 Gunja-Dong, Gwangjin-gu, Seoul, Korea	
URL	http://www.catholic.ac.kr/main/main_2014.html	http://www.sejong.ac.kr/	
学生数	約11,600人	約13,500人	
留学期間	平成28年2月～12月（平成28年度通年）		
派遣条件	GPA	2.8以上	
	語学能力等	韓国語及び韓国文化に一定の関心を有すること	
宿舍	学生寮		
留学経費	奨学金	日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度有り	
	現地発生費用 (年間目安)	寮費 ₩3,143,000 食費 ₩2,880,000 その他生活費 US\$1,400 アクティビティー費 US\$200	寮費 ₩2,480,000 食費 ₩930,000 その他生活費 ₩5,000,000
		上記合計 ₩6,023,000+US\$1,600 ≒ 約85万円 (1 ₩≒ ¥0.11, 1US\$ ≒ ¥120)	上記合計 ₩8,410,000 ≒ 約93万円 (1 ₩≒ ¥0.11)

■ 中国語圏

大学名	同济大学外国語学院	静宜大学	
所在地	中国 上海市 上海市四平路 1239 号	台湾 台中県 台中県沙鹿鎮中樓路 200 号	
URL	http://www.tongji.edu.cn/	http://www.pu.edu.tw/	
学生数	約48,000人	12,329人	
留学期間	平成28年9月～平成29年7月 (平成28年度後期・平成29年度前期)		
派遣条件	GPA	2.8以上	
	語学能力等	中国語及び中国文化に一定の関心を有すること。	
宿舍	学生寮		
留学経費	奨学金	日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度有り	
	現地発生費用 (年間目安)	寮費 約21,000元 (平均) 食費 約8,000元 その他生活費 約1,200元	寮費 \$1,000 食費 \$2,200 その他生活費 \$3,330 事故保険料 \$20
		上記合計 約30,200元 ≒ 約60万円 (1元 ≒ ¥20)	上記合計 US\$6,550 ≒ 約79万円 (1US\$ ≒ ¥120)

■ ドイツ

大学名	ヨハネス・グーテンベルク大学 Johannes Gutenberg Universität Mainz	
所在地	ドイツ ラインラント・プファルツ州 Saarstr. 21, D 55122 Mainz, Deutschland	
URL	http://www.uni-mainz.de	
学生数	約36,000人	
留学期間	平成28年10月～平成29年7月 (平成28年度後期・平成29年度前期)	
派遣条件	GPA	3.0以上
	語学能力等	ドイツ語を履修済み、または履修中であること。
宿舍	学生寮	
留学経費	奨学金	日本大学国際関係学部柳川海外交流奨学金給付規程による奨学金支給制度有り
	現地発生費用 (年間目安)	寮費 約€3,450 食費 €1,600 保険料 €770 その他生活費 約2,200€
		上記合計 €8,020 ≒ 約108万円 (1€ ≒ ¥35)

派遣交換留学

■ 選考過程

学部派遣交換留学生は、学内の選考手続きを経て選抜されます。出願者は、自分の希望する留学先出願条件を満たしていることを確認した上で、所定の期日までに提出書類を揃え、国際教育センターへ提出してください。

① 応募書類提出



〈出願提出書類〉

① 派遣交換留学申込書（国際教育センター配布）

② パスポートの写し（取得者のみ）

③ 志望動機エッセイ

〈英語圏〉 英文 A 4 用紙 2 ページ以内

〈韓国〉 和文 A 4 用紙 2 ページ以内及び半ページの韓国語要約文

〈中国語圏〉 和文 A 4 用紙 2 ページ以内

〈ドイツ〉 和文 A 4 用紙 2 ページ以内及び半ページのドイツ語要約文

② 書類選考



提出された書類及び学業成績に基づき、書類選考を行います。選考通過者は、面接選考試験へと進みます。

③ 面接選考



面接選考に合格した学生は、学部派遣交換留学候補生となり、本学から派遣先大学へ交換留学生として推薦されます。

④ 受入れ先大学からの入学許可の取得

受入れ大学からの入学許可証をもって、正式に交換留学生として派遣することが確定します。

■ 帰国後の単位認定について

① 単位認定は、留学先で学んだ授業内容と履修時間数に基づいて行われます。

② 認定科目について

外国の大学等で履修した授業科目の単位については、その内容及び時間数を精査した上で、本学部授業科目に単位認定します。（個別認定）

また個別認定が認められない授業科目の単位については、自由選択単位として認定（一括認定）されることがあります。

※ 単位認定は、本学部の単位として妥当と判断された場合に限り認定されますので、全ての申請内容が認められるものではありません。

③ 単位認定に要する時間数

● 講義科目 1 単位 15 時間（2 単位 30 時間、4 単位 60 時間）

● 外国語科目 1 単位 30 時間（2 単位 60 時間）

● 演習科目 1 単位 30 時間（2 単位 60 時間）

● 演習科目〔講義該当〕 1 単位 15 時間（2 単位 30 時間、4 単位 60 時間）

※ 現地授業時間については、90分～120分授業を2時間、45分～60分授業を1時間として扱います。

④ 海外留学の単位認定は60単位を上限として認定されますが、この中には単位互換科目、相互履修科目等を含みます。

⑤ 留学年度末に卒業を予定している場合は、1月中旬までに書類提出を完了してください。

⑥ 疑問や不明な点は海外留学ガイダンスや国際教育センターで必ず質問してください。

中期留学

中期留学とは国際関係学部が主催する約半年間の留学プログラムで、国際関係学部と提携している下記大学の附属語学学校等（英語圏及び中国語圏）へ留学します。英語圏では、TOEFL®400点以上なら参加できるチャンスがあり、語学をはじめ、それ以外の科目も学べ、現地での成績を元に単位認定がしやすい魅力があります。

留学期間は派遣大学の学生寮に滞在することになり、安心した留学環境において、勉学に励むことができます。まずは約半年間の中期留学で語学力をスキルアップさせ、帰国後、派遣交換留学に挑戦することも可能です。世界の一流大学キャンパスで半年間留学できる貴重な機会です。

平成27年度募集概要

（各項目の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト <https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/> を参照してください。なおアクセスには学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。）

大学名称	セント・ノーバート・カレッジ St. Norbert College	ゴア大学 Goa University	北京大学国際関係学院
所在地 URL	アメリカ ウィスコンシン州 http://www.snc.edu/	インド ゴア州 http://www.unigoa.ac.in/	中国 北京市 http://www.pku.edu.cn/
派遣期間	平成27年8月中旬～平成28年3月下旬	平成27年9月中旬～平成28年2月下旬	平成28年3月上旬～平成27年6月中旬 （※平成28年度留学扱い）
募集人数	20名程度	12名程度	20名
応募資格	留学時学年 2年～3年		3年～4年
	語学能力、 検定試験等 TOEFL-ITP®400点以上、-iBT®32点以上		TOEFL-ITP®400点以上、-iBT®32点以上 ※留学出発までにTOEFL-ITP®450点 以上を取得することを目標とする。
研修内容	① 集中英語コース (ESL) 及びCIEコース*	対象者：TOEFL-ITP®の スコアが400点以上550点未満 の学生	国際関係とグローバル化 国際交流と異文化コミュニケーション ソフトパワーと国家 中英バイリンガル文献購読 国際問題研究 中英バイリンガル会話 (各計60時間)
	② 秋学期正規課程授業履修 及びCIEコース* (正規課程 授業料は全額免除)	対象者：TOEFL-ITP®のスコアが 550 (iBT79) 点以上の 学生	
	*CIEコース：Center for International Education 日大生用に開講する講義形式の授業で1月から3月までの 9週間行われる。政治・経済・文学・異文化コミュニケーション		
留学費用 (前年度参考)	1\$≒118円で計算 (平成27年1月現在)		
	①集中英語コース	②正規課程コース	GOA大学費用
	内訳 ESLコース授業料 \$3,760 CIEコース授業料 \$2,425 寮費・食費・他 \$7,895 旅行・ ビザ費用 約200,000円 合計 約1,870,000円	内訳 秋学期授業料 全額免除 CIEコース授業料 \$2,425 寮費・食費・他 \$7,895 旅行・ ビザ費用 約200,000円 合計 約1,220,000円	内訳 授業料 \$4,100 寮費・食費・他 \$3,300 旅行・ ビザ費用 約160,000円 合計 約1,030,000円
	北京大學費用 内訳 授業料 18,400円 寮費・食費・他 12,260円 旅行・ ビザ費用 約100,000円 合計 約690,000円		
上記以外に海外旅行傷害保険料、その他生活費が必要となる (約10万円～約20万円)			
宿舎	セント・ノーバート・カレッジ 学生寮	ゴア大学 ゲストハウス	北京大学 学生寮
単位認定	「単位認定科目一覧」に基づき単位互換可能と認められた科目の範囲で講義内容・履修時間数・成績等を勘案した上、本学部の修得単位として認定する。		
申込手続	①中期留学オンライン申請（詳細は募集説明会にて告知予定） ②パスポートの写し（申請中の場合は不要）と英語圏の場合はTOEFL®のスコアの写し（ITPレベルIIは不可、2年以内に受験したスコアに限る）を国際教育センターに提出		①中期留学申込書 （国際教育センターにて受領） ②パスポートの写し
募集説明会	平成27年4月上旬 詳細はUNIPA* / 掲示参照		平成27年10月上旬 詳細はUNIPA* / 掲示参照
※選考方法、単位認定等について詳細を説明するので、希望者は必ず参加すること			
応募締切	平成27年4月中旬 詳細はUNIPA* / 掲示参照		平成27年10月下旬 詳細はUNIPA* / 掲示参照

※TOEFL®スコアの有効期限は2年間です。提出スコアの取得日に注意してください。

※UNIPAとは「UNIVERSAL PASSPORT」の略

認 定 留 学

「認定留学」とは、国際関係学部または日本大学本部が主催するプログラム以外で留学する場合に、本学部から「留学」として承認を受けて留学する制度のことを言います。

本学部から認定留学として承認されるには、留学先機関が、次の条件を満たし、事前に必要書類を提出して学部の承認を得る必要があります。

（履修要覧抜粋）

- ①外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、または、その附属の教育機関を指します。
- ②当該外国の大学で学修することが、教育上有益であると認められることが必要です。
- ③当該学生が外国の教育で受け得るだけの能力を有していることが必要です。

※「認定留学」として認められないケースの代表的な例は、コミュニティーカレッジや大学に附属しない一般の語学学校です。中には、一般の語学学校が、大学キャンパスの施設を借りて、学校を運営していることがありますが、その場合も「認定留学」としては認められませんので、留学先を選択する際には、よく注意してください。

「認定留学」を希望する学生は、国際教育センターで認定留学に関する手続き並びに学内留学アドバイザーの先生との面談を受けた上で、各自自己責任の基、各大学等への入学手続きを行ってください。なお、各大学への入学審査等の時間も考慮し、留学希望時期よりも遅くとも半年前からは準備を始めるようにしてください。

留 学 期 間	留学先大学が定める1学期間等、2年間を限度とする。 (留学認定期間としては、本学で定める学期期間とする。)
認定留学申請期限 (期 日 厳 守)	前期からの留学：1月15日 後期からの留学：6月20日
申 請 方 法	国際教育センターまでお問い合わせください。
留 学 中 在 籍 料	3ページ参照
単 位 認 定 対 象 留 学 先	①大学の正規課程（学位取得コース科目） ②日本大学国際関係学部または日本大学本部と提携している大学の附属の教育機関 ただし、単位認定は、留学先で学んだ授業内容と履修時間数に基づき、本学部の単位として妥当と判断された場合に認定されます。全ての申請内容が認められるものではありません。
諸 注 意	①留学（留学扱い）として認められる期間は、実際に渡航する日からではなく次のようになります。 1年の留学：4月1日から翌年3月31日または10月1日から翌年9月30日まで 半年の留学：4月1日から9月30日または10月1日から3月31日まで ②留学斡旋業者を利用する場合は、その業者の信頼性、料金体系、サポートサービス等をよく調査し、慎重に選定してください。また業者任せにせず、自らも留学に対する知識を養っておくことがトラブルの予防にもなります。

ジョイント・ディグリープログラム

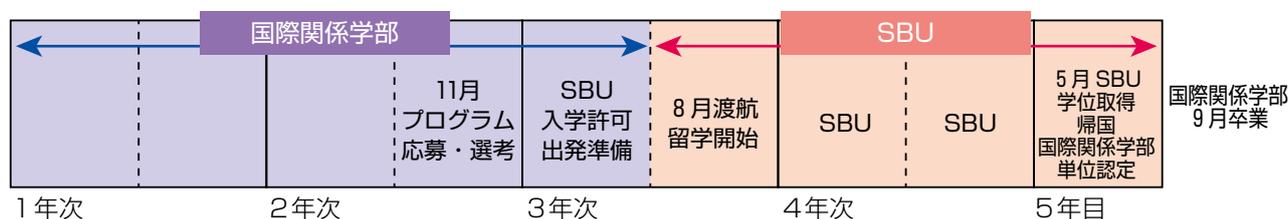
ニューヨーク州立ストーニーブルック大学

本プログラムは、国際関係学部にて在籍する学生が3年次後期より2年間アメリカのニューヨーク州立ストーニーブルック大学で修学し、最短4年間半で双方大学の学士号を取得することを目的としたプログラムです。

参加希望者は、下記派遣条件を満たしていることを確認し、所定の応募期限までに申し込みを行ってください。応募・選考等の詳細については、国際教育センターまでお問い合わせください。

留学期間	平成28年8月～平成30年5月（最長約2年間）
募集人数	若干名
出願条件	①留学時に日本大学国際関係学部3年次の正規課程に在籍する学業成績優秀な学部生で、上記留学期間中も引き続き在籍できる者 ②2年次終了時点でGPA3.25以上の学業成績保有者であり、TOEFL-iBT® 79点（PBT 550点相当）以上の英語能力を有する者
出願締切	平成27年11月6日（木）
出願提出書類	①留学志願書 ②志望動機（英文・Word A4用紙2枚以内） ③ TOEFL-iBT® のスコアカードの写し（ITPは不可）
選考方法	書類選考及び面接選考により総合的に判断する。
留学中在籍料	3ページ参照
宿舎	ストーニーブルック大学学生寮等
現地発生費用	ストーニーブルック大学授業料、寮費、学生保険、個人経費等については、下記Stony Brook大学ウェブサイト参照 http://stonybrook.edu/undergraduate-admissions/cost-and-financial-aid/ ※ “Cost of Attendance”（1年間費用の概算）参照 ※ 授業料については、“Out-of-state & International” 料金参照
奨学金	日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度あり
単位認定	本学で承認された留学期間2年間に限り、その科目の講義内容・履修時間数・成績等を勘案した上、教授会の議を経て本学部の修得単位として認定する。
備考	留学期間は2年間まで修業年数に算入する。

ジョイント・ディグリープログラム留学モデルプラン（最短で双方の学位を取得した場合）



留学準備プログラム

本学の学術交流協定校であるハワイ大学マノア校と共同開催する英語学習プログラムです。米連邦政府教育長官認定の英語教育資格認定団体 CEA より優秀校として認定を受けた同校のプログラムは、スピーキング、コミュニケーション能力向上に力を入れていることで知られています。英語圏の留学（中期留学、派遣交換留学）を目指す方はもちろん、会話力を中心とした英語力を向上させたい方にもお勧めします。

夏期講座では先生と学生アシスタントをハワイから招き、三島にいながらにしてハワイで行われているプログラムと同等の2週間の英語集中講座を受講できます。また春期講座ではハワイ大学マノア校に3週間滞在し、英語を学びながら、アメリカのキャンパスライフを疑似体験することができます。なお、春のプログラムには本学教員が担当する約4か月間の事前講習（授業回数は10回程度）が含まれています。

平成27年度募集概要

(各項の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト <https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/> を参照してください。なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。)

プログラム名	ハワイ大学夏期英語集中講座	ハワイ大学春期英語集中講座
研修場所	国際関係学部 三島キャンパス	ハワイ大学 マノア校
プログラム期間	講習：平成27年8月初旬から2週間（日曜日除く）	事前講習：平成27年10月～12月（計10回程度） 講習：平成28年2月初旬から3週間
募集人数	45名	10名
応募資格	国際関係学部・短期大学部に所属する学生、及び日大三島高校生	①国際関係学部1年次から4年次に所属する学生 ② TOEFL® スコアを提出できる者
研修内容	午前3時間、午後2時間の計5時間、3クラスに分かれて10日間の授業を行う。加えて、ハワイ文化等を学ぶ交流プログラムを1日1.5時間、9日間実施する。	月曜から金曜まで1日4時間の授業を15日間実施する。
費用 (前年度参考)	45,000円	約490,000円 (海外旅行傷害保険料、昼食代などは含みません。) ※ 前年度実績を平成27年1月時点の為替レートを反映した参考金額
宿舎		ホームステイ
単位認定	単位認定希望者は、所定の条件を満たすことを条件にハワイ大学から授与される修了証書に単位認定申請書(※)を添えて国際教育センターに提出する。(※1年生は「英語Ⅲ」または「英語Ⅳ」。2-4年生は「英語Ⅴ」または「英語Ⅵ」。)	4年生を除く単位認定希望者は、所定の条件を満たすことを条件にハワイ大学から授与される修了証書に単位認定申請書(※)を添えて国際教育センターに提出する。(※ 対象科目の「英語Ⅶ」または「英語Ⅷ」のどちらかを選択する。ただし4年生は除く。)
申込手続	国際教育センター Web サイト https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/ を参照してください。 なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。	
募集説明会	4月以降(予定) 詳細は UNIPA* / 掲示参照	5月以降(予定) 詳細は UNIPA* / 掲示参照
応募締切	6月中旬(予定)	9月中旬(予定)

※TOEFL® スコアの有効期限は2年間です。提出スコアの取得日に注意してください。

※UNIPAとは「UNIVERSAL PASSPORT」の略

短期海外語学研修

短期海外語学研修とは、語学の実践力を向上させる目的で、日本大学及び国際関係学部・短期大学部が外国の大学などで実施する約1か月程度の短期海外研修に参加するプログラムです。実践的なスピーキングやリーディングなどの力を養いながら語学力を向上させることはもちろん、その国の生活文化に直接触れられる機会となります。

日本大学本部主催の短期海外研修の詳細は、日本大学本部のホームページで確認してください。

(http://www.nihon-u.ac.jp/international/study_abroad/summer_school/)

平成27年度募集概要

(各項の内容は変更になる場合があります。)

大学名称	ニューヨーク州立 ストーニーブルック大学	WITT	北京大学 国際関係学院	TIEC	(短期大学部主催) ハワイ大学*
所在地 URL	アメリカ ニューヨーク州 http://www.sunysb.edu/	ニュージーランド ニュープリマス市 http://www.witt.ac.nz/	中国 北京市 http://www.pku.edu.cn/	アメリカ テキサス州 http://www.tiec.org/	アメリカ ハワイ州 http://manoa.hawaii.edu/
研修期間 (予定)	平成27年8月上旬出発 (16日間)	平成27年8月中旬出発 (30日間)	平成27年8月上旬出発 (24日間)	平成28年2月上旬出発 (30日間)	平成27年8月上旬出発 (18日間)
授業日程	9:00~15:50	8:30~15:00	①8:30~11:30語学研修 ②14:00~17:00自由研修	①8:30~12:30 15:00~17:00 ②8:30~12:30 PM:アクティビティ	9:00~15:30
募集人数	20名程度	20名程度	20名程度	30名程度	20名程度
	(最少開催人数10名)				
応募資格	国際関係学部・短期大学部 (三島)及び経済学部の 在学生	国際関係学部・短期大学部(三島)の在学生			
研修費用 (前年度参考)	約600,000円 語学研修費、宿泊費、食費、 旅行・ビザ費用など	約660,000円 語学研修費、宿泊費、食費、 旅行・ビザ費用など	約300,000円 語学研修費、宿泊費、食費、 旅行・ビザ費用など	約600,000円 語学研修費、宿泊費、食費、 旅行・ビザ費用など	約350,000円 語学研修費、宿泊費、食費、 旅行・ビザ費用など
	上記以外に海外旅行傷害保険料、その他生活費が必要となる。 ※前年度実績を平成27年1月時点の為替レートで反映した金額				
宿 舎	大学の学生寮	ホームステイ	大学の留学生寮	ホームステイ	大学の学生寮
単位認定	「国際交流(外国語実習)」(国際関係学部)又は「海外語学実習」(短期大学部)の2単位を修得できる。 (履修登録が必要)				「海外語学実習」(短期大学部)の2単位を修得できる。 (履修登録が必要)
申込手続	①短期語学研修オンライン申請(詳細は4月上旬の説明会にて告知予定) ②パスポートの写し(申請中の場合は不要)、誓約書、医療同意書を国際教育センターに提出				
募集説明会	4月上旬以降 詳細は UNIPA* / 掲示参照		4月上旬以降 詳細は UNIPA* / 掲示参照		4月上旬以降 詳細は UNIPA* / 掲示参照
応募締切	5月下旬(予定) 詳細は UNIPA* / 掲示参照		10月下旬(予定) 詳細は UNIPA* / 掲示参照		5月下旬(予定) 詳細は UNIPA* / 掲示参照

*ハワイ大学の研修には、栄養学の講義、実習等が含まれます。

※UNIPAとは「UNIVERSAL PASSPORT」の略

ティーチング・インターンシップ・プログラム

国際交流の基本的目的のひとつに、国際的な状況下で実践家として活動でき、異なった文化価値が理解でき、あらゆる状況に柔軟に対応できる個人を養成する点があります。ティーチング・インターンシップ・プログラムは、この能力を学生たちに身に付けさせるために計画・実行されています。

プログラムは、事前研修と現地での実習の2つから構成されています。事前研修は、現地の生徒に対する教授法を学び、日本文化や日本語を英語で説明できる能力を養成することに主眼を置いています。また、現地の文化的特徴なども学びます。

約8週間の現地での実習では、本学部と提携している海外の小・中学校（一部高校も含む）へ Teaching Intern 生として派遣され、現地の生徒達に日本語の初歩及び日本の文化を英語、あるいは日本語で教えます。日本文化や日本語を教えるプロセスを通して、外国語運用能力やコミュニケーション能力を養成し、更に、現地地域文化やその根底にある文化価値を実際の生活体験や教育体験から学び、柔軟さをもった価値観を育成します。

平成27年度募集概要

(各項の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト <https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/> を参照してください。なおアクセスには学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。)

派遣先 (昨年度の例)	Discovery School of Lancaster	Devon Intermediate School Highlands Intermediate School West End School	Belgian Gardens State School Ryan Catholic College Saint Anthony's Catholic College	ナラン学校
所在地	アメリカ サウスカロライナ州	ニュージーランド ニュープリマス市	オーストラリア タウンズビル市	モンゴル ダルハン市
派遣期間	平成28年2月～平成28年3月(約8週間)			平成28年9月～11月(約8週間)
募集人数	若干名(各校1～2名。前年度派遣者数は11名)			若干名(2名程度)
応募資格	① 日本大学国際関係学部在籍する学業成績優秀な2年生以上で、留学期間中も引き続き在籍できる者 ② 平成25年6月以降に受験した TOEFL® のスコアを提出できる者 ③ 教職課程または、日本語教員養成講座を履修していることが望ましい			① 日本大学国際関係学部在籍する学業成績優秀で、留学期間中も引き続き在籍できる者 ② 教職課程または、日本語教員養成講座を履修していることが望ましい
派遣費用 (前年度参考)	費用の目安として、オーストラリアに派遣された場合 約280,000円 ホストファミリー手配及び費用、往復航空券、空港税、燃油サーチャージ他 上記以外に海外旅行傷害保険、食費、その他生活費が必要となる。 ※ 前年度実績を平成27年1月時点の為替レートで反映した金額			・ホストファミリー手配及び費用(8週間) ￥0 ・往復航空券・空港税・燃油サーチャージ他 ￥80,000 ・海外旅行保険 ￥40,000 ・その他生活費 ￥40,000 ー ￥150,000
宿舎	・日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定により奨学金を支給する。 ・期間中の滞在費は全て個人負担とする。 現地の家庭にホームステイ			
単位認定	最終選考に合格し、インターンシップ派遣生として所定の時間数(事前研修及び現地実習)を満たした場合「ティーチング・インターンシップ」の単位が認定される。(希望者のみ)			
申込手続	① TIP オンライン申請(詳細は説明会にて告知予定) ② パスポートの写し(申請中の場合は不要)、TOEFL® のスコアの写し(IPT レベルⅡは不可、2年以内に受験したスコアに限る)、志望動機(Word を使用し英文で A4 用紙2枚以内)を国際教育センターに提出			① TIP オンライン申請(詳細は説明会にて告知予定) ② パスポートの写し(申請中の場合は不要)志望動機(Word を使用し A4 用紙2枚以内)を国際教育センター窓口へ提出
募集説明会	4月初旬予定 詳細は UNIPA* / 掲示参照 ※ 選考方法、単位認定等について詳細を説明するので、希望者は必ず参加すること			10月初旬予定 詳細は UNIPA* / 掲示参照 ※ 選考方法、単位認定等について詳細を説明するので、希望者は必ず参加すること
応募締切	5月中旬 詳細は UNIPA* / 掲示参照			平成27年11月中旬 詳細は UNIPA* / 掲示参照 ※ 平成27年度募集は締切ました。

※ TOEFL® スコアの有効期限は2年間です。提出スコアの取得日に注意してください。

※ UNIPA とは「UNIVERSAL PASSPORT」の略

平成27年度新規追加予定プログラム

サラマンカ大学（スペイン）

- 学部派遣交換留学
 - 短期海外語学研修
 - ティーチング・インターンシップ・プログラム
- ※詳細については、国際教育センターに確認してください。

国際教育センターについて

国際教育センター C.I.E.L.D (Center for International Education and Language Development) では、留学相談の窓口として次のようなサポート実施しています。

- 本学部生を対象とした、派遣交換留学、中期留学、認定留学、短期海外語学研修、ティーチング・インターンシップ・プログラム等の募集、手続き等のサポート
- 海外提携校等からの受入れ交換留学生のサポート
- 本学部生を対象とした TOEFL-ITP®、TOEIC®-IP の受付、実施

場所 本館1階

窓口業務取扱時間 月～金曜日 9時～17時
土曜日 9時～13時

国際教育センター Web サイト

留学説明会情報、留学体験談、TOEFL® 試験日程等、留学ことについての情報提供をしています。

※アクセスには日本大学国際関係学部生専用メールアドレスとパスワードが必要です。



<http://goo.gl/QAWgy>

ガイダンス、留学説明会、TOEFL-ITP® 試験日程等は UNIVERSAL PASSPORT や学内掲示板（本館1階、15号館1階）等でもお知らせします。



TOEFL® テスト

TOEFL® (Test of English as a foreign language) は、主に英語圏の大学・大学院が英語を母国語としない学生の入学要件として求めているテストです。TOEFL-ITP® は、TOEFL® の作成元である ETS (Educational Testing Service) が提供する TOEFL® の団体向けテストプログラム (TOEFL® 模擬試験) です。

TOEFL-ITP® のスコアは公式なものではありませんが、出題形式や採点方法は従来のテストに準じており、学生の英語力判定に有効なだけでなく、本学部が実施する英語圏の各留学プログラムに参加するためにも必要となります。

本学部では、TOEFL-ITP® を年間 8 回実施しています。目標に向けた早めの準備、計画的な受験をしましょう。

TOEFL-ITP® 平成27年度スケジュール

実施日	申込期間	実施日	申込期間
5/9 (土)	4/13 (月) ~ 4/15 (水)	10/24 (土)	9/29 (火) ~ 10/1 (木)
6/27 (土)	6/2 (火) ~ 6/4 (木)	11/21 (土)	10/26 (月) ~ 10/28 (水)
7/11 (土)	6/16 (火) ~ 6/18 (木)	12/5 (土)	11/9 (火) ~ 11/11 (水)
9/11 (金)	7/28 (火) ~ 7/30 (木)	3/3 (木)	1/26 (火) ~ 1/28 (木)

上記日程は変更となる場合があります。

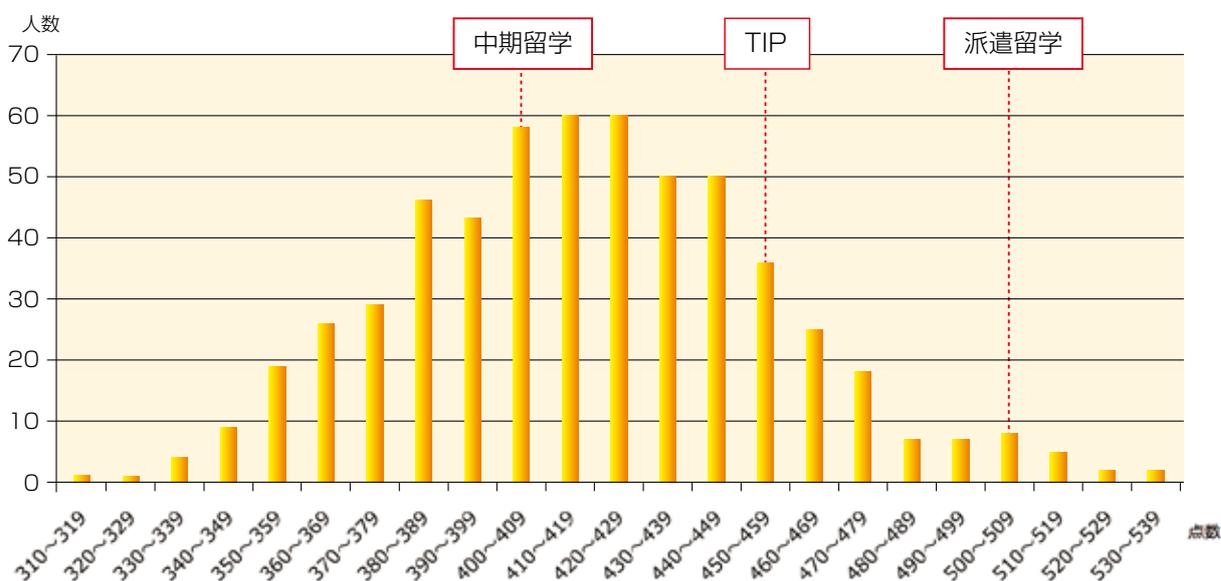
会場 日本大学国際関係学部
 申込場所 国際教育センター (本館 1 階)

TOEFL® 説明会

TOEFL® について詳しく知りたいという学生のために説明会を実施しています。日程等の詳細は、国際教育センターまたは掲示で確認してください。

国際関係学部 TOEFL-ITP® スコア

平成26年 4 月から平成27年 2 月に本学部で実施した 7 回分のデータです。



人数は実数です。

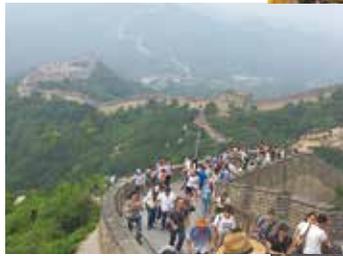
平成27年度 海外留学関連説明会・募集年間予定

留学プログラムに参加したいと思立ったら、まずは、説明会に参加してみましよう。国際教育センターでは、留学プログラムの説明会をはじめ、TOEFL® 説明会、海外安全危機管理セミナー等を実施しています。説明会では、プログラム内容の詳しい説明、応募方法、資料配布等を行っています。

4月	4月3日	海外留学ガイダンス・短期海外研修ガイダンス
	上旬～中旬	各種説明会 (学部派遣交換留学、SNC・ゴア大学中期留学、ティーチング・インターンシップ・プログラム、短期海外研修、認定留学)
	下旬	ハワイ大学夏期英語集中講座説明会
5月	中旬	短期海外語学研修募集締切
	下旬	TOEFL® 説明会 平成27年度ティーチング・インターンシップ・プログラム募集締切(英語圏)
6月	1日	学部派遣交換留学春募集締切(WITT、韓国)
7月	上旬	海外安全危機管理セミナー
	上旬～中旬	認定留学説明会
9月	下旬～	TOEFL® 説明会
	下旬～	学部派遣交換留学(秋募集)説明会
10月	～上旬	
	上旬	北京大学中期留学説明会 認定留学説明会 ティーチング・インターンシップ・プログラム説明会(モンゴル)
	中旬	短期海外語学研修 TIEC 募集説明会
	下旬	ハワイ大春期英語講座説明会
11月	上旬	学部派遣交換留学秋募集締切(アメリカ、ドイツ、中国語圏) ジョイント・ディグリープログラム募集締切
	中旬	ティーチング・インターンシップ・プログラム募集締切(モンゴル)
	下旬	英語圏中期留学説明会
12月	上旬	平成28年度ティーチング・インターンシップ・プログラム説明会(英語圏)
	中旬	海外安全危機管理セミナー

※ 上記予定は変更となる場合があります。各説明会等の開催日時は、掲示等で必ず確認をしてください。

2 国際交流体験記の紹介



学部派遣

University of Wisconsin Stout (アメリカ)
 留学期間：平成 25 年 8 月 26 日～平成 26 年 5 月 16 日

交換留学を終えての感想

国際総合政策学科
 田中 佐和子

私は2013年8月から2014年5月まで、アメリカの University of Wisconsin Stout に派遣交換留学生として留学しました。この報告書では留学での学習面、生活面について振り返りたいと思います。

授業は、日大で“広く浅く”学んだとすれば、アメリカでは“狭く深く”学んだと言えると思います。私は日大でのゼミのテーマであるマーケティングと、自分の興味のあるファッションビジネスの授業を中心に履修しました。

マーケティングや広告の授業で習った戦略は、日本とは異なる部分も多く、そこが興味深かったです。例えば日本の広告では、「当社の製品は〇〇で、A社の製品は××です」などと表現します。しかしアメリカの広告規制は日本よりも緩く、「私たちのKindleは、iPadよりもこんなに軽いです」と、直接他社の名前を出し比較することが許されます。こういった面から、アメリカではマーケティング分野が日本よりも充実し進んでいるように思いました。

ファッションビジネスの授業では、Trend Tracking and Fashion Forecasting という授業が一番ためになりました。この授業では、ファッションのトレンドがどのように作られるのかについて勉強しました。どのトレンドの背景にも、文化的、経済的、心理的など沢山の要因があり、それが融合し作られると知りました。この授業を通し、ファッションの分野に限らず、さまざまな業界のトレンドを分析する力が身に付いたと思います。この知識はマーケティングとも関連するので、自分のゼミでの研究内容にも活かしたいです。

留学では授業以外にも、様々なことを経験しそこから学びました。まず、人との出会いは自分自身を大きく成長させてくれました。私の大学には日本人が私以外にほとんどいなかったため、とにかく自分から積極的にコミュニケーションをとるように努めました。誘われたイベントやパーティーはすべて参加し、気づけば様々な国の友人ができました。

彼らと共に生活するのは、決して楽しいことばかりで

はありませんでした。考え方や価値観が全く異なるため、しばしば言い争いになりました。私たちはよく、“Don't judge me”という言葉を使いました。私も何回も言われ、言った言葉です。私は留学する前まで、たとえ自分が経験したことのないことでも自分のものさしで計っていたのだと思います。

しかし私たちはそれぞれ異なるバックグラウンドを持ち、考えが異なるのは当たり前であること、だから人の考えが間違っていると決めつけられないと、身を持って学びました。そして自分とは異なる考えから「こういう見方もあるのだ」と学び、自分の価値観を広げることができるようになりました。これは留学でしか学べなかったことであり、それを教えてくれた友人たちには本当に感謝しています。

この10ヶ月間は本当にあっという間に終わりましたが、とても充実していました。留学で得た知識と経験は、生涯を通して役立つと思います。貴重な体験ができ、本当に幸せでした。自分の留学を応援してくださったすべての方に感謝しています。これからは後輩たちにも留学の素晴らしさを伝え、相談に乗る側になることができれば幸いです。



友人の誕生日でのインドのダンス



インターナショナルカルチャーショー

本部派遣

高麗大学校（韓国）

留学期間：平成26年2月22日～平成26年12月21日

隣国の現状

国際教養学科
秋山 花葵

近年、韓流ブームの影響で日本にとってさらに身近な国となった韓国。距離的にも近いので、旅行で訪れた経験がある人も少なくはないだろう。私もこの留学プログラムが開始される以前に一度だけ旅行として訪問したことがある。しかし、今回の留学では、旅行では決して垣間見ることのできない韓国の本当の姿に直面することとなった。

日本人にとって、韓国・韓国人のイメージとは何か。勉強熱心、情熱的・感情的な人が多い、親日派・反日派、兵役義務、愛国心・仲間意識が高い等々、良くも悪くもこんなところだろうか。

私が派遣されることとなった高麗大学校とは、日本でいう早慶にあたる韓国でも屈指の名門校である。その学校生活の中での一番の衝撃と言えば、やはり韓国大学生の勉強に対する取り組みの姿勢・態度であった。私もこの事実を心得た上で留学に臨んだのだが、その想像を遥かに上回る現実に毎日感銘を受けるほどであった。学校内には至るところに自習室や自習スペースが設けられている。24時間体制の箇所も多く、学校自体も学生が有意義に勉強に励めるよう十分の配慮を配っているように感じた。試験期間にはどこの自習室も席がひとつ残らず埋まっている、席取り戦争も当たり前に繰り広げられていたのだ。授業でのプレゼン発表でも、原稿を読んだり恥ずかしがっている学生など一人たりともおらず、まるでどこかの会社のプレゼンを聞いている、そんな錯覚に陥るほどのものであった。



KUBAの友人たちとDMZ(韓国と北朝鮮の境)を訪れた際

しかし、実際異国で10ヶ月間生活してみると、もちろん良い面だけではなく悪い面も見えてくるものだ。あらゆる人がポイ捨てをするため道端にゴミが散乱している光景、地下鉄駅の入口でザルを置いて道行く人々がお金を入れてくれるのをひたすら待っている浮浪者、トイレットペーパーを流すことのできないトイレ、電車の中で当たり前のように電話する光景、信号無視をするバイク、今まで先進国で生まれ育ち、旅行も韓国を除けば先進国である国へしか行った経験がない私にとっていわゆる後進国での生活はショックの連続で不自由な面も多々あった。

しかし、私が10ヶ月の間に会って関わってきた人たちは本当に暖かい人ばかりで、反日派が多い、そんな考えが頭のどこかにあった自分が情けなくなるようなほど、異国に一人できた私を気遣い、支えてきてくれたのは間違いなく韓国現地の友人、教授、町の人たちだった。韓国人は情熱的・感情的だからこそ暖かい愛情を持って接してくれる、私はそう感じた。

高麗大学には、毎週末どこかに遊びに連れていかれたり、困ったときは色々な面で助けてくれるKUBAという韓国の大学の中でも有名なサークルがある。また韓国の三大名門校、ソウル大学、高麗大学、延世大学の中で唯一日文学科があるため、その面からも高麗大学は日本人にとって合うと思うのだ。これから韓国へ留学をしようと考えている人には、そのいまの気持ちを大切に、余計な固定観念を持たずに韓国で素敵な経験をして来て欲しいと願っている。



高麗大学対延世大学(고연전)スポーツ大会にて



セント・ノーバート・カレッジ (アメリカ)

留学期間：平成 25 年 8 月 20 日～平成 26 年 3 月 20 日

SNC 報告書

国際教養科
藤井 翔平

私はアメリカのセント・ノーバート・カレッジ (SNC) で 8 月から翌年 3 月までの約 7 か月に行われた中期留学プログラムに参加させていただきました。もともと、大学在籍中に留学したいという漠然とした希望を抱いてこの日本大学国際関係学部に入學したこともあり、今回の留学は自分の中で大学生活の一大イベントでした。SNC はアメリカの中西部の最北、カナダとの国境に面するウィスコンシン州の自然が豊かな田舎町にありました。

学校はとても綺麗で、勉強には最適な環境でした。

そこで私は ESL (English as a Second Language) のクラスに入り、ライティング、リスニング、リーディング、スピーキングの 4 つの授業をそれぞれ週 5 日毎日受けました。ESL には、日本人、サウジアラビア人、ベトナム人、中国人などアジアからの留学生が多く、また少数でしたが、ペルー、メキシコ、エクアドルなど南米からの留学生も来ていました。ESL ではこういった日本人以外の友達と仲良くなれ、週末、祝日はみんなでパーティーやスポーツなどをして過ごしました。ただし、平日はたくさんの宿題をこなすために、放課後はみんな図書館にこもり勉強する時間が多かったです。

寮ではルームメイト (私の場合はパキスタンから来た留学生) と二人部屋で、トイレとバスはフロアごとに、地下に 4 台ある洗濯機は寮全体でそれぞれ共有していました。(乾燥付き洗濯機は一回 2.50 ドル払うコインランドリー形式でした。) ルームメイトとの寮生活は文化の違いなどで慣れるまでは大変でしたが、英語にもなれ、お互いに意気疎通を図れるようになってからは、互いの文化、マナー、あいさつの仕方などを紹介し合うなど、とても楽しいものになりました。

また、日本に興味があるアメリカ人学生が集まるジャパンプラブという一種のサークル活動に週一回参加させて頂きました。ハロウィンパーティーや遠足などの企画に参加することで、アメリカ文化を体験でき、また日本文化を紹介する機会にも恵まれました。

さらに、フレンドシップファミリーという制度を利用し現地のアメリカ人家庭を訪問し、交流させていただく

機会もありました。私がお世話になったご家族は私にアメリカの家庭料理を振舞ってくださり、家族旅行に誘ってくださるなど、私にとってアメリカの家庭生活を体験する大変貴重な機会を与えていただきました。

その他にも 3 か月に一回行われる ESL トリップという課外活動では、牧場見学、バスケットボールの NBA 観戦、ショッピング、あるいはスキーなどを楽しむ機会もあり、日本では経験できないアメリカ文化を体感しながら、とても充実した 7 か月を過ごすことができました。こうした経験を通じ、私は単に英語、アメリカ文化を学んだだけでなく、日本という国を外から見ること、日本文化、日本人の国民性などを改めて学ぶことができたと思います。これは日本という国の外に行かないと体験できないことだと思いますし、現地の人と交流しなかなかなか実感できないことだと思います。私にとって、SNC 中期留学に参加できたことは大学生活の一つの宝物ですし、人生の一つの糧となりました。ありがとうございました。



ESL トリップ NBA 観戦にて



ジャパンプラブ ハロウィンパーティーにて

中期留学

ゴア大学 (インド)

留学期間：平成 25 年 9 月 19 日～平成 26 年 3 月 2 日

刺激を求めてインドへ

国際教養学科
新藤 蘭

「女子学生 1 人だけど、どうする？」私の留学生活は不安の中で始まった。

大学に入学したら人と違うことがしたい、そう思って 1 年生の頃からインド留学を決めていた。ところが、直前になって言われたその一言で今までの決意が少し揺らいだ。家族には猛反対され、ネットにはインドでの強姦事件の記述が後を絶たず、食事や衛生面など調べれば調べるほど不安要素は増えた。しかしあの時、「今行きたい！」という直感に従って一歩踏み出して本当に良かったと思う。

インドは、まか不思議な国だ。世界第 2 位の人口を抱え、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラム教、仏教、シク教など様々な宗教が混在する宗教の国。18種類の公用語、方言は1652語、同じインド内でも場所によって看板の文字は全く違うし、人々の衣装も食べ物も生えている木でさえ全く異なっている。異国の文化に興味を持っていた私にとってそれは毎日が勉強であり、日本の常識なんて簡単に覆される刺激的な生活であった。停電、断水は日常茶飯事。信号のない道路には牛の群れや野良犬たちがたむろし、ゴミの山をあさっていた。一方学生たちはスマートフォンを持ち歩き、FacebookやTwitterを楽しみ、都会では建設途中の高層ビルが立ち並び、ゴア州の海岸沿いではリゾート地の建設が進んでいる。発展途上国であるインドは先進国に追いつきたい気持ちと、変化させるのが難しい現況とで戦っているように私は感じた。

刺激的な思い出の一つに、ある女子学生の家にホーム

ステイをした体験がある。国の法律で廃止されたカースト制度を彼女の家庭ではまだ信じていて、肉を食べると今のカーストから外されてしまうという理由で、ベジタリアンを続けていた。また熱心なヒンドゥー教徒で、私が好奇心からお寺に入ろうとした際、シャワーを浴びて体を清めてからでないといくことはいけないと、真剣に怒られた。食事の際は家族と一緒にカレーを手で食べた。日本では絶対にできない経験だ。夜、村中が停電した時はみんな慣れた様子で居間に集まり、ランプの明かりの中談話が始まる。その光景は東日本大震災後の私の家族を思い起こさせた。暗闇の中、家族の心は一つになっているように私は感じた。その女子学生は言った、私たちは家族を一番に考えているのだと。彼女は25歳までに両親が決めた相手と結婚する。恋愛結婚したくないのかと彼女に尋ねると、何でそんな質問をしてくるのか不思議そうな顔をして、私は家族が大切だからこれで大変幸せだと答えた。

女子 1 人で始まった留学生活だったからこそ、私は人の温かさを身に染みて感じる事ができた。友情や家族愛について学ぶことも多く、女性の立場として考えさせられる場面も多かった。人とは違うことがしたいと思って参加したインド留学では、私の希望通り日本や他の先進国では絶対にできない経験をする事ができた。目を背けたくないような汚い惨い光景も、感動で言葉を失うような綺麗な光景も目に焼き付いている。素敵な刺激を与えてくれたインドとそこに住む人々に心から感謝したい。



ゴアのビーチで



友人宅で



北京大学国際関係学院（中国）

留学期間：平成26年2月23日～平成26年6月13日

中国の素顔

国際関係学科
船橋 映見

私が高校の頃、担任の先生や塾の先生が「留学に行ける機会があるなら絶対行ったほうがいい。」と言って、その影響で留学したいと思っていました。実際大学に入り、英語圏への留学を考えましたが、第二外国語で中国語を選んで、おもしろいと感じ、教授が授業中に北京大学の留学の話をお熱心してくださったこともあり、北京大学に中期留学しようと考え始めました。しかし、日中関係や環境問題を考えると不安なことは多かったと思います。それと関係して日本のテレビで報じられている中国のイメージと実際の中国は同じなのか、それとも全く違うのか、気になって、本当のことが知りたくて留学を決めました。

日本を旅立ち、北京の空港に着いた時、外の景色を見て、私は大変驚きました。これからこの空気の中で生活していくと思うと、不安は募るばかりでした。約一週間晴れを見ることができませんでした。初めて青い空を見たときは嬉しくて、北京も日本と同じようなときもあるのだとほっとしたのを覚えています。北京での生活が始まり、身の回りの物をそろえ、自転車も値切って購入し、洗濯のおばさんともなんとか話して洗濯もできるようになりました。バスや地下鉄の仕組みがわからなかったので先輩方に教えてもらい、周りの人に助けをもらいながら、少しずつ北京のことがわかるようになっていきました。どうしたら私の言いたいことが伝わるのか、中国人の言っていることが聞き取れるのか、苦勞を感じましたが、それが段々出来るようになっていくのがとても嬉しかったです。

授業は、中国語と英語が用いられました。午前の中国語の授業で学生が中国語でわからないときは、その意味を英語で教えてくれたのですが、私はその英語がわからなくて辛かったです。一方で中国語の単語の意味を聞かれたとき、日本語ではわかっているが、英語でなんと伝えればいいかわからなかったときは、本当に悔しいなと思いました。そこで改めて英語の重要性を感じました。午後にある外交の授業では、学生の一人が前でプレゼンをし、その議題について英語で討論をするのですが、私

にはそれが苦痛でした。英語が話せたら、そこまで難しいことはなかったと思うと、英語を勉強しなければと感じました。中国語を学びに行ったが、英語ももちろん必要だったので、留学に行く前にもっと勉強しておくべきだったと、きっとみんなが思うような後悔をしました。授業外では、北京大学のテニス部や日本人の社会人サッカーにマネージャーとして何回か参加し、日本人会や交流会には進んで参加しました。そういう場でのいろいろな人との出会いはとても刺激的でした。仲良くなった中国人とは、互いに母国語を教えあい、異国で会った日本人とは日本にいる時以上に短期間で打ち解け、相手の勉強に対する意欲をみて様々な刺激もらいました。それから最後の一月はHSKに絶対合格したいと一人で塾に通いました。今までの私では考えられない行動力でした。最後に、中国に行って私の中国に対する考えは少なからず変化しました。日中関係はよくないと言われているがそれは政府間であって、中国人は私たち日本人に親切でした。それからバスや電車でお年寄りすぐに座席を譲る中国人を見ていると心が温まりました。私はタクシーの運転手さんに「中国はどう？」と聞かれて、「空気以外とてもいいよ。」と答えていました。実際環境に少し問題はありましたが、中国は素敵なおところだと思いましたし、中国で世界各国の友達と出会えたことは一生の宝物です。そして異国で、何もわからず、不安なとき、手を差し伸べてくださった方々、留学に携わっていただいた方々に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。



クラスメート

認定留学

トロント大学附属語学学校（カナダ）

留学期間：平成 26 年 3 月 26 日～平成 26 年 9 月 28 日

海外留学報告書

国際総合政策学科
深川 理生

認定留学

上記の半年間、カナダのトロントへ留学していました。認定留学だったので、航空券の予約からホームステイ先を決めるところまで、全て自力でやらなければなりません。とても大変でしたが、今となってはどれも、とても良い経験です。私は、エージェントの方に助けられました。やはり留学する上でいちばん大事なことは、ホームステイ先です。もちろん留学先でのスタイルは様々ですが、私は留学することが、大学生活の中でのいちばんの夢で、留学するなら絶対にホームステイをすと決めていました。そして、ホームステイ先を探す際、私は理想のホストファミリー像というものを考えていました。私は一人っ子で、兄弟もいないので、大家族のような、にぎやかな家族のところへ行って、一緒に生活してみたいというものでした。実際、いちばん最初に決まっていたホームステイ先は、私の理想像とはかけ離れていたため、出発のギリギリまで粘り、自分の理想に近いホストファミリーを探し続けました。おかげさまで、最高のホストファミリーに出会うことができ、とても充実した留学生活を送ることができました。やはりホームステイをするのであれば、ホストファミリーを探す際、まず自分が向こうでどのような生活をしたいのか、理想像をつくり、少しでもその理想に近いファミリーを探すことが重要だと思いました。少し欲張りすぎるくらいがちょうどよいのです。トロントで、日本人も含め、様々な人々に出会い、ホームステイをして満足していな

いという話をいやというほど聞いてきました。何事にも、いやなら嫌と、自分の意見をはっきり言うことが大事です。日本人＝遠慮、控えめと言われるほど、我慢をする日本人が多いですが、せっかくの留学の機会を充実したものにするためにも、自分の意見は何であろうとはっきり伝えるようにしましょう。勉強面について、私の場合、留学に行く前は全く勉強をしませんでした。何の根拠もない自身があったのです。自分は高校受験、大学受験の時に一生懸命頑張ったから、その貯金があるだろうと、勝手に思い込んでいたのです。もちろん現実はそのほど甘くはなく、最初の1か月は、会話が音としてしか耳に入ってこず会話は成り立たない、頭の中では言いたいことを文章にできるのに、それを声に出して伝えるだけのことが想像以上に難しくてできないなど、たくさん苦労しました。よくいろんな日本人に質問されるのが、「どのくらいで英語話せるようになった？」というものです。私自身もはじめは、自分よりも話せる人にこの質問をしたことがあります。でもこれは本当に人それぞれで、はっきり言って、自分の頑張り次第です。だから、「半年留学すれば」とか、「1年も留学すれば」100パーセント話せるようになる、というわけではないのです。私は、どんな些細なことでもいいから、毎日ホストファミリーと会話することを心がけていました。全てにおいて、私にとってホストファミリーはかけせない存在でした。みなさんも頑張ってください。



クラスの人々とバーベキュー



友達と Tront Blue Jays の野球観戦

留学準備 プログラム

ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間：平成26年2月2日～平成26年2月23日

ハワイで過ごした3週間

国際教養学科
下田 照乃

私は2014年の2月2日からの約3週間、ハワイ大学マノア校への春季英語集中講座に参加しました。このプログラムは、ハワイで三週間生活しながら英語を学ぶことの出来るプログラムです。授業は土曜日と日曜日以外の週5日の午前中に行い、主な授業内容は室内で行う基本的な授業だけでなく、ハワイの伝統や文化を学ぶことの出来る屋外でのアクティビティーなど様々です。担任の先生は現地のハワイ大学の先生なので授業中に使える言葉も普段の生活もちろん英語のみです。しかし、先生はとてもフレンドリーで優しくだったので初めは緊張していましたがすぐに仲良くなる事が出来ました。そして先生の口癖“Don't be shy!”をモットーに、間違えることを恐れないで恥ずかしがらないで積極的に会話することが出来ました。授業の中には、現地の学生と1対1または2対1で話すことの出来るインターチェンジャーアクティビティーの時間がありました。インターチェンジャーの時間は週二日あったので、インターチェンジャーの学生たちとも仲良くなり、休日は一緒にハイキングに行ったりドライブに連れて行ってもらうたりと交流の幅も広がりました。その他にも、アクティビティーの授業ではハワイ伝統のフラダンスを習ったりウクレレを伴奏にハワイアンソングを歌ったり、ハワイの歴史ある建物や場所を見に行ったりと英語の授業だけでなくハワイの文化や歴史も学ぶことが出来ました。

もちろん英語を使う場所は学校内だけでなく学校外でも同様です。ハワイ大学では大学の学生寮に滞在するの

で現役の学生たちと同じ寮の中で生活します。寮の中にはプレイルームやカフェテリアがあるので現地の学生達と交流するチャンスがたくさんありました。最初はなかなか話かけることが出来ず、話しかけても何を話しているか分からなかったので何度もチャンスを逃してしまいました。しかし、勇気を出して声をかけてみると相手も優しく対応してくれたので、自分の自信にも繋がりました。その中には連絡先を交換する位に仲良くなれた相手もいて、今でもたまに連絡を取り合っています。

基本的に授業は平日の午前中だけなので平日の午後や休日はバスを使ってみんなでいろいろな場所に遊びに行きました。海や買い物はもちろん、ハワイ大学の学生のバスケットボールやソフトボールの試合を見に行ったりと、学生だからこそ出来る体験をたくさんすることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

この3週間、とても有意義で楽しい日々を送ることが出来ました。しかし、思ったことをうまく言葉に出来なかった部分もあり改善しなければいけない点も見つかりました。実際に現地に行って現地の方々とは会話をしてみないと分からないことがあり、良い面でも悪い面でも学ぶことがたくさんあった3週間でした。

留学を考えてはいるけれども、いきなり半年や一年行くのは不安だなと思っている方、長期休暇を利用して短期間で留学の模擬体験が出来るので、もし少しでも留学に興味があるかたは是非このプログラムに参加してみてください。



クラスメート達とアクティビティのフラダンス体験



現地で出来た友達とダイヤモンドヘッドへハイキング



短期海外 語学研修

ストーニーブルック大学（アメリカ）
研修期間：平成26年8月2日～平成26年8月17日

NY Memories

国際教養学科
森本 鮎美

私は2014年の夏、ニューヨーク州のロングアイランドにあるストーニーブルック大学に約2週間滞在しました。この大学4年間の間に一度だけでも英語圏の国へ行きたいという願望の下、行くなら今だと思い、参加しました。もう一つは友達が欲しいと思ったからです。

授業は朝9時から夕方4時まで毎時間50分です。そのあとは大学のキャンパス内やキャンパス外の色々な場所をみんなで巡りました。土、日はニューヨークのあらゆる場所へ観光に行きました。授業はライティング、リーディング、スピーキングなどでグループワークが主でした。そして一つ選択科目があり、私は英語のコミュニケーション力を高めたいという気持ちと、少しでも積極的になれたら、という思いがあったため、カンパセーションの授業を選びました。どの授業も、誰かと会話をしてコミュニケーションをとったり、発表をしたりしたので、「言わなければ、」という気持ちから、徐々に「言ってみよう！」という気持ちに変わっていきました。その中で特に苦労したのが、発音の授業でした。ここでは「right」や「light」、「sink」や「think」などの、似たような発音の練習をしました。普段、日本人が話さないような音があって大変でしたが、とても面白く、非常に勉強になりました。私はそれ以来、英語を話す際に発音を意識するようになりました。また、日本ではなかなか味わうことの出来ない経験だと思いました。先生は常に明るく、優しい方でした。こちら側から気軽に話しかけたり、質問したり、私たちに何か間違いがあったら、先生はわか

りやすく教えてくださいました。

ストーニーブルック大学には現地の人々だけでなく、様々な国から来ている生徒がたくさんいました。そのおかげで、国によってそれぞれ異なるキャラクターを持った人々と交流をすることができました。そこには笑いあり、驚きありでした。良い意味でカルチャーショックを受けた気がします。ストーニーブルック大学の校内はとても広く、食堂や売店などの建物がたくさんありました。ちなみに私たちは学生寮で約2週間を過ごしました。

また、土、日にはニューヨークの有名な場所へたくさん行きました。買い物をしたり、観光をしたり…。私は、「本当に今ニューヨークにいるんだな」と実感しました。仲間とニューヨーク市街を一日中歩いて、ニューヨークを満喫できました。

私は、どちらかというと、あまり積極的ではないので、同行する日大の経済学部の人たちと上手くやっていけるか心配でしたが、気付いたら彼等と自然に打ち解けている自分がいました。また、経済学部の人たちだけではなく、外国の友達もできました。ニューヨークで過ごした日々は毎日が濃く、本当に充実した約2週間でした。私は、このプログラムに参加して良かったと心からそう思いました。一生忘れられない、素晴らしい思い出が出来ました。もし、少しでも興味がある、もしくは迷っている方は是非参加してみてください。そして、今までにない貴重な体験をしてみてください。



大変混雑していたタイムズスクエア



緑が生い茂った中でみんなと

短期海外 語学研修



ハワイ大学 (アメリカ)

研修期間：平成 26 年 8 月 3 日～平成 26 年 8 月 20 日

UH Summer Seminar 2014 に参加して

食物栄養学科
田畑 礼子

私は、夏季休暇期間にハワイ大学で行われるUH Summer Seminar 2014に参加しました。今回の研修内容には、英会話だけでなく、ハワイの歴史・社会・文化に加え、生活や食文化などの講義や調理実習、地域見学や地元の中・高校生との交流等がプログラムされていました。出発までに必要な準備は荷造りだけではなく、パスポートの取得や保険の手続き、さらにESTAの取得などあつという間に出発日をむかえました。

現地ではThe Busに乗って移動しましたが、ルートが多く難解でした。引率の太田先生がバスルートを綿密にチェックし、常に待ち時間なく移動できて感謝しています。キャンパスに着くと、食堂の数の多さ、そして様々な国の学生がいることに驚き、食堂からダイヤモンドヘッドがよく見えることに感動しました。一方、肝心の授業は？というと、1つの授業が120分と長く、時差ボケもあって眠いし、何を言っているのか分からず、目を開けているだけで精いっぱいでした。しかし、授業の中で聞き取れた単語を辞書で調べたところ、先生が『飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の違い』について質問していると分かったときには、とても嬉しくなりました。また、英会話クラスでは、ハワイ大学の学生と英語で話すことができ、うまく話せたかはともかくとして、とても良い体験になりました。現地見学として、地元の病院内の栄養指導の現状や病院給食の見学をさせていただきました。それぞれの患者さんに合った食事で、食べたいものが食べられる献立作りは大切なことだと思いました。

ハワイのローカルフードというのはプレートランチが多く、メインの料理(日本・中国・韓国・フィリピン・アメリカなど)から選び、加えて白米とサイド料理としてポテトサラダ・マカロニサラダまたはキムチを添えてあるものがほとんどでした。何より印象的だったことは、調理時間が短く美しい、また食器は使い捨てで洗う手間がなく合理的だと感じました。逆に、日本は品数も豊富で、時間をかけているので、味から器まで全ての料理にこだわりがあるのだと感じました。外国と比べることで日本の劣るところ、良いところの両方に気付くことが出来ました。

研修中はルームシェアをしみんなまで自炊をしました。授業が終わると、みんなでビーチに行って遊び、後半数日は自由時間がありショッピングやレジャーを満喫し、たくさんの良い思い出が出来ました。何より友達と協力し合いながらたくさんのことを学ぶことが出来て良かったです。

最後にハリケーンが2つも接近してスケジュールの変更もありましたが、私にとって初めての海外で、初めて会う人や食べもの、初めてみたり触れたりするものも多く、常に英語を使う環境で生活したこと、どれも良い経験になりました。今回の素晴らしい経験は絶対に忘れませんし、この先私を支えてくれる宝物になることでしょう。この経験をさせてくれた全ての人に感謝しています。MAHALO!!



学校の前でみんなと



海岸にて



短期海外 語学研修

北京大学 国際関係学院 (中国)

研修期間：平成26年8月4日～平成26年8月27日

『二一八才、北京!』

国際教養学科
木本 星奈

私は1年生の夏に、中国の北京大学国際関係学院での24日間の短期語学研修に参加しました。大学に入学してから初めて中国語を勉強し、まだ4ヶ月ほどの学習期間しか経っていなかったことや、写真やテレビでしか見たことがなかった国でちゃんと過ごしていけるか不安でした。でも、「ぜひ行ってみたい!」という自分の強い気持ちと、「言葉はまだ分からなくても大丈夫。勇気を出してチャレンジしてみましょう!」という先生のアドバイスが、そんな私の背中を押してくれました。

授業は平日午前8時半から11時半まで行われ、同じ学部から参加したメンバー全員と一緒に授業を受けました。授業では日常会話だけでなく、中国の昔話やことわざなども幅広く学びました。宿題や単語テストが多くて大変な日もありましたが、頑張っただけというモチベーションが高くなり、みんなは仲間でありながらライバルでもあるという意識で日々取り組みました。先生は日本語が一切話せず主に中国語と英語での授業だったので苦労したことが多々ありましたが、午後は先生とお昼ご飯を食べたり、大学内を案内して下さったりとたくさんコミュニケーションを取り親しむことが出来ました。大学の食堂はとても安くおいしいメニューばかり、毎日でも飽きることがないほど種類が豊富でフルーツなどもあり、満足すること間違い無しだと思います。しかし、とても混雑しているので席を取るのは大変でした。近くには日本料理店もあって中華料理に飽きたら日本食を食べたり、カフェやファストフード店にも行きました。名物の北京ダックも最高の味でした。またスーパーや果物店、お土産屋なども多数あり手軽に色々なものが買えるのでとても便利でした。大学のコートでみんなでテニスをして楽しく身体を動かしたことや、仲間が私の誕生日を真夜中にサプライズでお祝いしてくれたことなども素敵な思い出です。

授業が終わったあとや休日には、地下鉄やバスに乗り色々な観光地に出掛けました。特に印象に残っているのは中国の象徴のひとつともされている「天安門」で、歴史的な背景や事件などでよくテレビで放送しているのを見て絶対に訪れてみたいと思っていました。入場料を払え

ば中に入ることもでき、レンタルの伝統衣装を着て写真を撮ったりもしました。天安門や北京動物園など学生証を見せると学割で入場料がかなり安くなる所もあるのでお得でした。商店街には、今まで見たこともない食べ物や伝統工芸品がずらりと並び、驚きと感動の連続で、見るもの触れるものすべてが新鮮でした。日本人だと分かる嫌な態度をとられたこともありましたが、そういった部分も含めて生で様々な体験が出来たことはすごく良かったと思います。

短期間の滞在でしたが、中国の文化や現地の人々と実際に触れ合うことで視野が広がり、自分の意見をはっきり表現することの大切さを実感し、本当に素晴らしい日々でした。中国に興味のある方はぜひこのプログラムに参加してみてください。きっと人生の宝物が増えると思います!



天安門にて



先生と仲間たちと本場の中華料理



Highlands Intermediate School (ニュージーランド)
派遣期間：平成26年2月3日～平成26年3月26日

ティーチングインターシップの派遣意義

国際教養学科
池田 真之介

僕にとってティーチングインターシップは入学時からの目標であり、それを達成できたことを嬉しく思っています。僕はこのプログラムの中で様々な成果を得ることができました。中でも、このプログラムに意義を見つけて、それを実践して帰国したことは最も大きな成果です。

僕は、選考期間からトレーニング期間、派遣期間にわたってプログラムを楽しみ続けましたが、派遣校決定から派遣されてしばらく経つまでの間に大きな苦悩に直面し、一時は辞退しようかと迷ったほど悩みました。派遣された学校では、日本語の授業が行われていません。生徒たちにとって日本語や日本文化は未知のものであり、派遣生の授業は毎年生徒たちに喜ばれています。しかしそれは同時に、派遣生による授業は生徒たちにとって不必要な授業であるということです。日本語及び日本文化の授業は卒業要件には含まれず、ニュージーランドで一般的な生活を送るために必要とされるわけでもありません。どのような授業をするにせよ、海外の教壇に立つことは僕にとって素晴らしい経験となり、僕自身を成長させることに疑いはありません。しかし僕は、学校生活の貴重な時間を使い、楽しいだけで流れてしまう、実りのない授業を行うことに意義を見出せず悩んでいました。しかし、派遣されてからしばらく経ち、生徒たちと接するうちに、彼らにとって日本のみならず異文化に接すること自体が初めての体験であることに気づいたのです。彼らは異文化に出会った時に、それをどのように捉え、

学習すれば良いのか知りません。それを糸口に、僕の授業が異文化学習の練習になるのではないかと考え、日本を例に、異文化に対する正しい接し方や態度を伝えることを授業の目標としました。毎回授業で特に意識したことは二つあります。一つは「自国と他国を両方尊重する」ことです。双方を尊重し比較検討することで、相違点や共通点、双方の長所を合わせた更に優れた発想など、様々な考察を導き出すことができます。これを実践するために、日本の例を挙げるたびに、相当するニュージーランドの例を生徒に発言させる授業形態を取りました。もう一つは「楽しむ前に知る」ことです。授業内では、生徒たちが楽しめるアクティビティの時間をなるべく多く取るようにしましたが、ただ楽しむだけでは意味のある異文化学習にはなりません。事前に、文化の歴史や位置づけなどの情報を伝えることにより、生徒たちは自分が何をしているのか理解し、アクティビティがより意味のあるものになるのです。この二つは派遣前のトレーニングで身につけた異文化学習の非常に有効な手段です。各クラス最後の授業では、どうして僕がこのような授業形態をとったのか説明し、異文化学習におけるこの二つの重要性を伝えてきました。

これこそが僕が派遣された意義であり、それを見つけて達成してきたことはとても大きな成果となりました。この経験は一生大切にしていこうと思いますが、同時にこれをひとつの過去として、残りの大学生生活の次の段階へと進んで行きたいです



書道



水泳大会



ティーチング・
インターシップ・
プログラム

ナラン学校 (モンゴル)

派遣期間：平成 26 年 9 月 10 日～平成 26 年 11 月 24 日

不思議の国モンゴル

国際総合政策学科
鷹野 敏也

草原、羊、ゲル。モンゴルに対するイメージのほとんどはこれだと思います。私もモンゴルへの派遣が決まるまではそう思っていました。ホームステイと聞いていたので、派遣される前はテントに泊まり馬で学校に行くのかな、などと考えたこともあります。しかし実際には、多くのビルが建ち並び道路もきちんと整備されている地域も多くあります。

私はウランバートルから北西に200kmほどのところにあるダルハンオール県ナラン日本語学校に約2ヶ月間派遣されました。ナラン日本語学校では100人以上のモンゴル人が日本語を学んでいます。私は2年生から11年生までの授業を受け持ちました。日本の小学校1年生から高校生2年生に相当します。日本語、日本文化の授業はもちろんのこと、他に英語、書道、図工、けん玉を教えました。

ナラン学校では直接法と呼ばれる日本語で日本語を教える方法を採用しています。日本語の授業中はすべて日本語で行いモンゴル語は一切使いません。まだ学びはじめの1年生には日本語で言ってもほとんど通じず、静かにさせるのにかなり苦労しました。逆に高校生になるとレベルも相当に上がり、ネイティブとほとんど変わりません。質問してくる内容も難しいので答えに詰まることがよくありました。

授業を行う中でとても難しかったのが単語の説明と叱ることです。ナラン学校の生徒は幼いときから直説法で日本語を学んでいるので「は」や「が」などの助詞の使い分

けは自然と理解していきます。しかし単語は意味を簡単に言い換えて教えなければなりません。たとえば「道徳」などの抽象的な言葉は説明がとても難しかったです。

私はモンゴルに派遣されるまで生徒を真剣に叱った経験がありませんでした。生徒を注意するということはたびたびありましたが生徒を真正面から叱ることはありませんでした。宿題を忘れてくる生徒が多いので叱ってくださいと指導教員から言われたときは正直かなり戸惑いました。どういう言葉を使えばいいのか、どんな態度をとればいいのか全くわかりませんでした。感情的にならずにやるべきことはちゃんとやろうと言うことを長くなりすぎないように伝えたのですが、かなり疲れました。叱るという行為は非常に体力を使うとわかっていたつもりでしたが想像以上でした。叱ったのは1度だけでしたが今でもそのときの疲労感を覚えています。

もちろん大変なことばかりではなく、楽しいこともたくさんありました。休み時間には生徒といろいろなことを話しました。けん玉クラブも作っていただき、みんなで楽しくけん玉ができました。

ホームステイ先でもとても歓迎してもらいいろいろな料理を食べさせてもらいました。

ナラン学校の先生方とも仲良くなりカラオケに行ったり、キャンプをしたりしたのがとても楽しかったです。

教務課を始め本当に多くの方々を支えられてこのプログラムをやり遂げることができました。ありがとうございました。



けん玉クラブにて



ホストファミリーとの日帰り旅行にて

教員の交流

イリノイ州立大学 足立伸子准教授が来校

平成26年6月25日（水）より7月17日（木）まで、平成26年度の海外客員招へい教授として、足立伸子准教授が来校された。

足立先生は日本大学国際関係学部の一期生として卒業後、イリノイ大学の修士課程で人類学を学び、トロント大学において Ph.D を取得した。同先生はこれまで、日系ブラジル人をジャパニーズ・ディアスポラの一形態としてとらえる視点から、学会での共同研究や自らが主宰する雑誌の編集などを通じて、幅広い研究活動を展開している。

同先生が所属するイリノイ州立大学は1857年にイリノイ州で初めて創設された公立大学で、7つのカレッジ、34の学部からなる総合大学である。現在学生総数は約2万(学部生1万8千、大学院生2千)、教員数約1千である。

5回の講義では、現地調査に基づく、日系ブラジル人の過去と現在の課題について、新しい視点と情報を学生たちに提供した。英語のパワーポイントを用いた国際的な視野からの講義は、学生たちに深い感銘を与えた。国際的に活躍する先生の講義は、海外を目指す学生に大きな刺激となっただけでなく、女性研究者として海外で生きるモデルを直接体験させてくれる良い機会となった。

日付	時限	講義内容
平成26年6月27日（金）	1	論争の対象となっている日系ブラジル人の農本主義
平成26年7月2日（水）	2	ブラジルにおける日系人のエスニック・キャピタルと彼らの未来
平成26年7月3日（木）	3	カテゴリーとしての人種とエスニシティのダイナミズムと分類過程
平成26年7月11日（金）	4	言語の選択、社会的役割とジェンダー
平成26年7月15日（火）	5	人類学者と日系ブラジル人社会

現在、彼女が所属するイリノイ州立大学の社会—人類学部および大学院修士課程と日本大学国際関係学部および大学院との学術交流協定の締結に向けた調整が進められている。両学部生と大学院生の交流が実現する日が一日でも早く実現することが期待される。



学部長、事務局長、吉田正紀先生と



授業風景 その1



授業風景 その2

教員の交流

テキサス A&M 大学アーサー・サカモト教授が来校

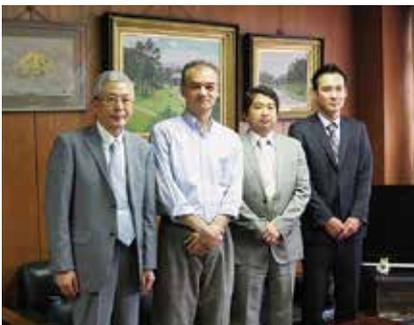
平成26年度国際関係学部の招へい教授として、テキサス A&M 大学からアーサー・サカモト教授が、平成26年6月1日（日）～6月14日（土）の14日間の日程で来校された。

テキサス A&M 大学は1876年に創設された州立の総合大学で、近年は潤沢な資金援助を背景に北米トップクラスの研究大学として台頭しつつある。サカモト教授は所得格差や労働経済、人種と民族関係といった幅広い分野に研究業績を持つ、著名な社会学者である。アジア系アメリカ人研究に関する評価も高く、日系アメリカ人博物館や主要学会にて基調講演を行っている。また、労働・経営文化から見た日本社会にも大きな関心を寄せており、雇用・賃金制度や経営文化の日米比較に関する論文や学術発表もある。

同教授の来校中、人種・民族・移民研究の現在、社会的不平等の日米比較といった幅広いテーマに関する特別講義が行われた(下表参照)。歴史的・文化的考察、そして統計分析や社会理論を織り交ぜた講演は学生のみならず、本学教員からも高い評価を得た。実際、毎回の講義後は聴講者からの質問が相次ぎ、急きょディスカッションの時間を改めて設けるほどの関心が集まった。また、懇親会でも学生・教員との積極的な意見交換が見られ、本学部の学術・文化交流にとってたいへん有意義な招へいとなった。

日付	時限	講義内容
平成26年6月4日（水）	4	Why Income Inequality is Lower in Japan than in the United States? Sociological Approach 所得格差の日米比較：社会学的考察
平成26年6月5日（木）	2	Socioeconomic Characteristics of Asian Americans アジア系アメリカ人の社会経済的特徴
平成26年6月6日（金）	5	Poverty as a Social Problem in the United States 社会問題としての、アメリカにおける貧困
平成26年6月10日（火）	1	The Japanese American Family Today 今日の日系アメリカ人家族のかたち
平成26年6月13日（金）	3	Race and Ethnicity in Contemporary America 現代アメリカにおける人種と民族

サカモト教授は招へい担当者がテキサス大学オースティン校在学中の指導教官であったこともあり、本学部着任後の研究・教育活動に多大な支援と研究上有益な助言をいただいている。同教授はかつて沼津市に1年ほどの滞在歴があることから、2週間という短い期間ではあったが、今回の招へいで少しの恩返しができればと思っていた。日本語と日本文化に精通している同教授の協力的・友好的な姿勢は本格的な留学を目指す者を含めて、本学部生にとって貴重な体験となったであろう。



学部長、国際交流担当、武井勲先生と



授業風景 その1



授業風景 その2

2015

COLLEGE OF INTERNATIONAL RELATIONS NIHON UNIVERSITY



日本大学国際関係学部 国際交流委員会